

Japanese man In NY (ニューヨーク生活)



Times Square, New York in 1995

《謎のビジネス》

今回はニューヨーク生活で体験した謎のビジネスの話。当時のニューヨーク生活では、パソコンを持っていた人は一部、携帯電話やスマートフォンも登場する前で、ニューヨーク現地で日本人観光客を相手にガイドの仕事をしていた人がショルダーフォンを使っていたのは見たことがあった。インターネットも一般に普及する前の時代だったため、今思い返すと謎のビジネスが存在していた。

今の時代はYouTube、Amazon Prime、Netflix等、パソコンやスマホを通じて、たくさんの動画、映画、ドラマ等を楽しむことが出来るが、それ以前の日本では、TSUTAYAやGEO等、レンタルCD/DVD店が全国各地に普及していた。今の若い世代の人たちには想像することが難しいかもしれない。

れないが、その昔は「友&愛 (You & I)」等、貸しレコード店なるお店も存在していた。お気に入りのLPレコードを借りて、カセットテープにダイビングして、ウォークマン等のカセットテープ・プレイヤーで聴いていたのが当たり前のもあった。

ニューヨーク生活で体験した「謎のビジネス」は、移動レンタル・ビデオ屋さんだ。レストランでウェイターの仕事をしていた頃、確かな記憶ではないが、毎週木曜日だっただろうか。ランチ後、ディナーの時間までの休憩時間にあたる午後3~4時になると、キャリーカートにたくさんのビデオテープを積んだ男性がやって来て、バーのカウンターにビデオテープを並べてくれるのだった。

ビデオテープの内容は、日本のドラマやお笑い番組、ドキュメンタリー番組、アニメ、格闘技等、要は日本のテレビで放送されていた番組をダビングして、それを1本3ドルで1週間貸してくれるシステムだった。店のウェイターやウェイトレスをはじめ、従業員のほとんどがお世話になり、前週に借りたビデオを返却して、また新しいビデオを借りるということを毎週やっていた。

自分も好きなドラマやキュメンタリー番組の他、個人的には格闘技が好きだったため、新日本プロレスの試合を収めたビデオの他、当時付き合っていた奥さんが楽しみにしていた「まんが日本昔ばなし」も借りていた。記憶では、アダルト・ビデオ的なものはなかったと思うが、あったとしても、仲間のウェイトレスがいる前で堂々と借りる勇氣はなかったと思う。毎週ビデオを運んでくれる男性（確か、名前はこうべさんという人だった）にリクエストをすると翌週届けてくれたりもして、日本の情報が限られていた当時は本当に助かっていて、毎週の楽しみだった。毎週平均5~6本は借りていたと思う。

また、当時はマンハッタン内で日本の食品を売っていたお店にもレンタル・ビデオコーナーがあって、1本3ドルで1週間貸出されていた。もう時効だと思うが、今思うと、移動レンタル・ビデオ屋さんも違法だったのではと思う。著作権的なことは無視されていただろうし、毎日のように日本食レストランを回って貸出していけば、結構なビジネスになっていたのかもしれない。

移動レンタル・ビデオ屋さんとの交流は、当時はごく日常的な光景だったが、今思い出すととても懐かしい。今回「謎のビジネス」と題して紹介したが、当時のニューヨーク生活には無くてはならない存在で、日々のニューヨーク生活を豊かに楽しくしてくれた存在でもあり、感謝の気持ちしかない。

Hawaii Walker's (ハワイの歩き方)

Hawaiian Shochu Company

ハワイアン焼酎カンパニー

今回はオアフ島のワイキキから車で約1時間、パアラ・ロード沿いに佇む「ハワイアン焼酎カンパニー」。日本で焼酎造りを学んだ平田 (Ken Hirata) さんが1人で始めた手造りの焼酎製造販売会社。ハワイ産のサツマイモで醸した本格的な焼酎「浪花」が有名で、「浪花」をベースにハワイの草花・海藻・果物を使って造られたクラフトジン「ハレイワレインボー」や限定商品「パンザイストロング」等も人気。工場見学やテイastingも可能で、ハワイで愛されている和製焼酎を堪能できる。

HP : <https://www.hishochu.com>

《ハワイな一枚》



Jazz Goes Hawaiian V.A.

Retrieval : RTR-79037 [Import CD]

サッチモことルイ・アームストロングやハワイ出身の中国系サクソフ奏者アンディ・イオナ等が奏でたハワイっぽいジャズナンバーを24曲収録したアルバム。